

事業報告書

事業結果の概況と運営状況

入園児童も定数(95人)を上回り、収容面積で許される範囲で受け入れを行い月平均101名であった。園児たちは園施設および保育用品を活用、保育園生活を生き生きと送ることができた。

平成19年度から3歳4歳5歳児の完全異年齢保育に移行し、上の年齢(5歳児)の子は自分より下の年齢の子どもの面倒を見たり遊びや生活の面で良き見本になり、思いやりや自信が育っている。下の年齢(3歳児)の子は上の年齢の子どものを真似たり、慕ったりして意欲や頑張る力が育っている。大人が子どもに対して丁寧に、優しく関わる事によって子ども同士も穏やかに安心して楽しく過ごせる場所となった。

保護者のニーズ、時代の要請にあった保育とはなにか・・・毎日が模索であるが園長以下全職員が年間を通じ計画的にあらゆる機会を通じて研修し、資質の向上に努めた。外部講師を招くと共に月一回金曜会として職員同士で研修に励んでいる。

地域子育てひろばについては17年度目となり、週2日(火・金)地域はもとより市内多方面からの利用者の来園に供した。園長以下担当職員が、利用者の相談にのり子育ての不安をできるだけ取り除くため鋭意努力した。また、本年度も年間を通じて保育士、看護師および栄養士による講座を行い利用者の子育ての一助に供した。子育てひろばからの入園者も増え園生活を楽しんでいる。

青梅市の子育て支援事業実施業務委託を市内保育園で唯一受託し、近隣の自治会館を使用しての業務を平成20年から開始した。週3日(月、水、木)として、地域の子育て支援に貢献した。畳の広い空間で利用者がゆったりと過ごせ、また玩具の充実に努めた。平成28年度子育て広場利用者は延5000人を超えた利用があった。

理事会、理事長の意向を充分理解し、限りある予算を執行するについて、園長をはじめ全職員がその重要性を認識し、鋭意工夫を行い、効率あるものとした。

日常の保育をより良いものにしていくため、園長の指示に従い職員全員この一年間、保育の向上、充実に計ってきた。結果保護者との信頼関係性も良く、子どもとの関係性においてもより良好となっている。他園からの保育の見学者も増え評価も高まっていると自負している。